

玉井小だより

平成27年9月9日
大玉村立玉井小学校
TEL (48) 3302
発行者 校長 佐藤一男

『ういて まて』が合言葉



【2年 着衣泳の様子】



【1年 教室での着衣泳の学習】

9月4日と8日、着衣泳法教室を行いました。1年、4年、5年生は、気温と水温が低いため、教室での勉強になりましたが、学年毎に全校児童が勉強しました。

武田智道PTA会長さんをはじめ7名の講師のみなさんが指導して下さいました。みなさんは消防署にお勤めの人命救助のプロの方々ばかりです。水難学会の着衣泳研究会というボランティア団体に所属し、学校などで指導されているそうです。

もちろん一番大事なことは、おぼれないことです。万が一の危険に備えて、勉強しておくことはとても大切なことです。心の準備のある子とそうでない子では、ぎりぎりの困難な状況で大きな違いがでてくるのではないのでしょうか。もしおぼれたら、何とかして『浮

いて待つ』というのが基本だそうです。ランドセルでもペットボトルでも、とにかく浮かぶ物をつかんで「浮く」、そして、助けを待つ。

「待つ」というのは消極的に聞こえるかもしれませんが、決してそうではありません。どんなに厳しい状況でも決して希望を捨てない、あきらめない。それがその人の命を助けることにつながるのだと思います。これからも、様々な機会をとらえ、子どもたち一人一人に「自分の命は自分で守る」ことをしっかりと教えていきたいと考えています。

中学生と一緒にあいさつ運動



【小中交流あいさつ運動】

9 / 3 (木)、朝の7時30分から、大玉中学校の生徒と本校の子どもたちが一緒に「あいさつ運動」を行いました。小学校と中学校の児童会・生徒会の交流活動のひとつです。子どもたちが、昇降口の前に立ち、登校してくる子どもたちと「おはようございます。」とあいさつを交わしました。教育委員会の佐藤吉郎教育長さんや藤原謙先生、そして中学校の後藤悠理先生

もおいで下さいました。みんなで朝のあいさつを交わして、気持ちよい朝のスタートになりました。このような活動を通して、「あいさつをすると気持ちいい。」ということ子どもたちが体で感じてくれれば、誰かに言われなくても、自分から進んであいさつをするようになるのではないのでしょうか。そして「あいさつをしないではいけない」子どもたちになってほしいと思っています。これからも学校と家庭そして地域のみなさまが同じ思いで子ども達に接してければと思っています。よろしくお願いします。

お知らせ 学校の畑のその後

1学期、保護者のみなさまや地域のみなさま、そして教育委員会の学校支援ボランティアのみなさまなど、たくさんの方々の力をおかりしてつくった畑に、作物が実りました。

猛暑で水が足りなかったのか、サツマイモの成長は今ひとつのようですが、枝豆は立派に実りました。その枝豆できなこをつくりたいと計画しているクラスもあります。オクラ



【畑にオクラが実りました】

も、用務員の國分金男さんが丁寧に手入れをしてくださったので見事に実っています。作物の成長を見守る子ども達の笑顔も輝いています。ご協力本当にありがとうございました。